

2020 年度専門学校長野ビジネス外語カレッジ

学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：2019 年 4 月 1 日

至：2020 年 3 月 31 日

専門学校長野ビジネス外語カレッジ

学校関係者評価委員会

専門学校長野ビジネス外語カレッジ学校関係者評価委員会は「2019年度自己点検・自己評価結果」を基に学校関係者評価を行った。その結果を以下のとおり報告する。

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

専門学校 長野ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価の目的を、以下のよう定める。

- ①自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②本校と密接に関係する団体、企業の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

専門学校長野ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

2020年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

- ①第1回目(7月)に実施する委員会は、2019年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
- ②第2回目(10月)に実施する委員会は、各評価項目に対して学校関係者評価委員会から評価報告をする。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として以下、企業、関係業界に委嘱した。

氏名	所属	
岡田 基幸	AREC・浅間リサーチエクステンションセンター	企業・業界団体関係者 評価委員長
石坂 大輔	渋温泉小石屋・株式会社ヤドロク	企業・業界団体関係者
林 辰幸	林行政書士事務所	企業・業界団体関係者
後藤 公彦	株式会社明神館	企業・業界団体関係者

仲西 裕紀	店舗流通ネット株式会社	企業・業界団体関係者
-------	-------------	------------

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

2020年度第1回学校関係者評価委員会		
日時：2020年7月1日 14:00～15:30		
場所：専門学校 長野ビジネス外語カレッジ 4F		
会議次第		
時間	項目	担当者
14:00	開会挨拶	浅野校長
14:10	評価委員長挨拶	岡田 基幸
14:15	2019年自己点検・自己評価報告	李
14:45	2018年事業報告・2019年事業計画報告	浅野校長
15:00	意見交換会	
15:30	閉会の挨拶	浅野校長

2020年度第2回学校関係者評価委員会日程		
日時：2020年10月22日(木) 14:00～16:00		
場所：専門学校 長野ビジネス外語カレッジ 4F		
会議次第		
時間	項目	担当者
14:00	開会挨拶	荻野正昭 常務理事
14:10	委員紹介	浅野校長
14:15	2019年度学校関係者評価報告 各評価委員より評価発表(各10分)	各評価委員
15:15	休憩	
15:20	2021～2023年度に向けた学科コース編成等 について	浅野校長・教務
16:00	閉会挨拶	井上由紀子 評議員

4. 基準項目ごとの学校関係者評価及びご意見

1 教育理念・目的・育成人材像等

石坂委員	企業に求められている人材像を把握し、それにあった資格取得やスキルの向上を目指してほしい。
後藤委員	若いうちに他国の出身の方々と学びをともにするという事は将来良い経験になると思うし、外へ向けての強いアピールポイントにもなると思う。 今年度来年度は就職難が見込まれるので、就職を見送って進学をするという学生が増えると思う。そういった子たちに対しての1つの選択肢になることを期待する。
仲西委員	職業実践専門課程の適合校を目指すにあたり、企業連携を強化する上で会社説明会回数を増やしてほしい。外国人採用企業が減少傾向にある中、ISI 学園の会話力の高い人材を高度業務、または中間業務などニーズに併せて、高度人材、特定技能ビザと幅広く採用するチャンスであることを訴求したい。 (会話力の高さはアピールポイントになると思う)

2 学校運営

後藤委員	前回の委員会にて発表のあった入学生の人数の推移をみて、NBL はこれから成長していく学校だと確信した。コロナの終息後、通常の運営となり海外からの生徒さんが戻ることを期待している。
------	---

3 教育活動

石坂委員	学生の資格取得に対するサポートをしてほしい。専門士の資格だけではなく、言語やITスキルの国家資格(またはそれと同様の資格)を取得することで採用側としても学生の努力の結果を感じることができる。
林委員	目に見える資格をできるだけたくさん取得してほしい。目に見えないスキルだけではビザ申請をしてもアピールにならない。特定技能ビザの状況や今年度の学生の就活の状況について

<p>→【回答】高木</p> <p>林委員</p> <p>後藤委員</p> <p>仲西委員</p>	<p>て伺いたい。</p> <p>特定技能については、流れていた宿泊、外食、食品製造分野の試験がようやく動き始めた。</p> <p>学生の応募状況だが、宿泊 10 数名、その他（外食、食品製造など）に 20 名ほど応募している。農業・ビルクリは企業側からのオファーは多いが技能試験の再開が未定である。7 月の JLPT が流れてしまった影響か、学生たちは 12 月の受験でいい成績を収めるべく、勉強に集中している様子が伺える。</p> <p>宿泊・外食は、求人があったとしても申請許可が下りづらくなっているため、食品製造やビルクリなどに力を入れていったほうがいいのではないかと思う。</p> <p>教員と生徒間で適切なコミュニケーションがとれている様子が見られ、楽しく教育活動、授業ができていないかと思っている。（いい意味で学生との距離が近い）</p> <p>日本でのビジネスマナーもカリキュラムにあり留学生の方々も安心して勉学に臨めるのではないかと思う。</p> <p>ぜひこういったカリキュラムにこれからも力を入れていってほしい</p> <p>業界の人材ニーズに向けて正しい方向付けをするために、外食業界及び飲食料品製造業への就職希望者に対して是非 e ラーニングの活用を。</p>
---	---

4 教育成果

<p>石坂委員</p>	<p>就職率に関して今年は例年以上に厳しいと思われるので、卒業後も学校側がサポートして就職率の向上に努力してほしい。</p> <p>資格取得の重要性を説いても学生は生活のためのアルバイトで一杯一杯なところもあるので、カリキュラムの中で資格試験の受験を必須にしておいてはどうだろうか(受験料も込)。</p> <p>外部の団体が主催しているコンペやビジネスコンテストなどに積極的に出て名前を売ってきてほしい。</p>
-------------	--

→【回答】 井上評議員・堀内	東京校では各種資格試験の受験を必須化としている。来年度より本校も留学生は JLPT・TOEIC、日本人は英検・HSK の受験を必須にするよう計画をしている。 また今後はさらに専門的な資格（おもてなし検定等）の受験も必須としていきたい。
後藤委員	学生本人が実感できるような目に見える成果があればと思う。
仲西委員	卒業後に第一線で活躍している学生の情報を流すなど、卒業生・学生それぞれに向けての PR をしていくのはどうか。 在学生、卒業生が登録する ISI 学園長野校の専用 Face Book ページ内にて、具体的な就職成功事例など明るく、わくわくするようなニュースを増やしていくことで、就職について更に前向きな行動が確認できるようになるのでは。

5 学生支援

岡田委員長	飲食店やコンビニなどでのバイト等も良いが、彼ら彼女らの高い能力を活かしたアルバイトを地域内で見つけ、そのようなアルバイトに就いてほしい。学校はそういった企業の開拓、学生とのマッチングを行ってほしい。卒業後はこの地域で起業するなど地域への PR にもなると思う。また、自治体のインバウンド観光客を増やす施策へのお手伝いの仕事などはどうか。（地元密着企業はなかなかインバウンド向けのアピール方法を思いつきづらいので、NBL で学んだ経験は重宝されると思う。）
石坂委員	経済的に余裕がなくかつ優秀な学生を対象にアルバイトの斡旋および奨学金を出してはどうか。観光系のある大学では、大学と旅館が提携し週末や繁忙期に働くことを条件に旅館の寮に無料で住める制度を作っている。また将来の方向が決まっている学生であれば、採用を前提として企業がその学生の学費（の一部）を負担するなど柔軟な方法を取れるようになってほしい。（千葉には実際にそういった試みをおこなっている大学がある）
林委員	卒業後学生のフォローをお願いしたい。また、在校生のアル

後藤委員	<p>バイトの管理について、徹底してほしい。特定技能については「始末書」を描けば許してくれたという事例があるにはあるが…</p> <p>学生の寮完備など安心して学習できる場所が良い。 今後インターンシップができる支援活動（その期間アルバイト休業しないといけない環境について）があれば就職内定率もあがるのではないか。</p>
------	---

6 教育環境

石坂委員	<p>実際の就職に結びつけるためにどんどん学外実習に出してあげて欲しい。その際に学校側も企業に対してどのように学生に指導してほしいかを伝えてほしい。地域によっては学生を安い労働力としか見ない場合があるので、学生が学外実習を行う際のカリキュラムも学校側で作成し起業に提示してほしい。企業もきちんとした対価を払うことで「学外実習期間中はアルバイト代があまり稼げないので行きたくない」という環境を作らないようにする。</p> <p>地域によっては留学生に対してマイナスなイメージ（不真面目そう）がまだまだあるので、そういったイメージを払しょくする意味でもインターンに積極的に出してみてもいい。</p>
後藤委員 →【回答】李	<p>ほかの教育機関との交流があればと思う。学校の設備について、WiFiの整備がもうすこしあればと思う。（実際に授業を行っていて、不便に感じている）</p> <p>昨年度の学生満足度調査にても同様の指摘を多々されている。現在本社と協議の上、システムを再設定して改善を図っている。</p>

7 学生の募集と受け入れ

岡田委員長	<p>日本人学生の受け入れの強化外国人との交流によるグローバル視点を学べることを魅力に思う高校生もいるはず。そのためには、どのような価値をNBLが学生に与えることができるのかを高校生や保護者に明確に示すのが重要かと思う。NBLの価値を見つけ出して前面に出して行ってほしい。</p> <p>大人数を募集することを目標にするのではなく、数は少なく</p>
-------	---

石坂委員	とも、本気で学びたい学生のための選択肢になってほしいと思う。
後藤委員	留学生と一緒に学べるという点が強みであると考えてるので、日本人の募集にもっと力を入れたらどうか。長野県内で国際経験を身につけるにはとてもいい環境である。
仲西委員	地元の学生が今後の活動が実り入学していただければと思う。
	コロナの影響で日本に入国できなくなっている外国人材が海外に数多く存在する。一方で日本国内の外国人材の受入れが困難になっている企業が増えている。このような状況下、就職先が見える学生募集が出来れば応募数も就職支援率も向上すると思う。

8 財務

・コメントなし

9 法令等の遵守

後藤委員	学生に関する受け入れの環境が、他の専門学校に比べて優秀だと思う。
------	----------------------------------

10 社会貢献

岡田委員長	専門学校であるので、そこまで地域貢献や社会貢献を大事にしていくということが本当に必要なのか疑問である。確実な継続運営こそが一番の地域や社会への貢献であると思うため、まずは継続運営を第一に考え活動しては。継続運営が確実になってから地域貢献について考えはじめてもいいのでは。
石坂委員	優秀な学生が多いということを知ってもらうためにも定期的に学外のイベントに参加すべき。近くの大学など学祭に出るなどして、上田の国際化の中心に貴校があることをもっと知ってもらえるような活動をしてもらえればと考える。

後藤委員	留学生はこの街に溶け込み受け入れられているように感じる。日ごろの上田市への貢献の結果では。他校にないカラーがある魅力的な学校なので、まずはそのままの特色を持ってここにありつづけることが大事だと思う。
------	---

以上